富山大学 教養教育院

令和２年度 第2回

FD研修会報告

Faculty Development Report

FD REPORT

Liberal Arts and Sciences at **University of Toyama**

目　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

山口大学視察の報告に関する要約　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
島根大学視察の報告に関する要約　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
講演「熊本大学における教養教育」の要約　・・・・・・・・・・・・　5

参考資料
・開催要項
・参加状況
・講演「熊本大学における教養教育」スライド

はじめに

令和 2 年度第 2 回教養教育院 FD 研修会「他大学の教養教育の現状に学ぶ」を Zoom ミーティングにより 9 月 1 日に開催した。この FD 研修会は、今後の教養教育のカリキュラムや運営体制の改善に向けて、他大学の教養教育の現状についての情報を得ることを目的としたものである。令和元年度に行った山口大学と島根大学への視察から得られた知見についての教養教育院教員による報告を行うとともに、熊本大学の新しい教養教育の取り組みについて同大学の川越明日香准教授（大学教育統括管理運営機構）にご説明を頂いた。特に「全学の教養教育の概念と実施内容」、「共通教育の実施体制」、「外国語教育」をテーマとして、3 大学の情報をもとに活発な議論が行われた。

本報告書は、FD 研修会で行われた報告と議論について教養教育院教育改善検討 WG において要約したものである。教養教育のカリキュラムや運営体制の改善を検討する際に参考となる情報が含まれているものと考えている。都合により当日参加できなかった方には是非目を通していただき、FD 研修会で示された情報を共有されたい。また、参加いただいた方にも FD 研修会の内容をもう一度振り返るための資料として活用していただきたい。

熊本大学の川越先生のご講演で用いられたスライドは、報告書の末尾に参考資料として添付した。より詳しく講演内容を知りたい方は、そちらも参照していただきたい。また、教養教育支援室に問い合わせて頂ければ、各講演のビデオ動画の視聴も可能である。

山口大学視察の報告に関する要約

山口大学の大学教育センターを視察された鳥海清司先生によって、視察で得られた情報の報告があった。

山口大学では、全学の教育に関わる大学教育センターだけでなく、評議会の下にある検討会議や教学委員会によって教養教育が運営されている。大学教育センターに教学マネジメント室と教育支援センターが 2020 年度に立ち上がり、それらによって全学教育に関わる PDCA サイクルを回すような組織変更が図られている。教養科目の実施体制としては、富山大学での部会制度と同様な分科会が設けられている。

共通教育のカリキュラムは「教養コア」、「英語」、「一般教養」からなり、それらの中で「定食化（科目指定）」も図られている。それら以外に、「専門基礎」、「教職科目」、「教養発展」等の科目が設けられ、共通教育が構成されている。各科目について教室の収容定員を鑑みた受講者数の設定がなされており、英語等の科目は特に少人数に設定されている。それらの教室規模は、富山大学と概ね同程度と言える。英語については、TOEIC も利用している。初修外国語を専門基礎と位置付けていることは興味深い。

本学の組織改善に向けて、特に「大学教育センターが担っている大学全体の教育の企画・立案・運営の役割」や「授業の責任部局体制」は大いに参考にすることができると考えられる。

島根大学視察の報告に関する要約

島根大学を視察された名執基樹先生によって、島根大学 HP を利用して全学共通教育の実施内容や、実施組織である教育推進センターの構成について説明がなされた。

島根大学における全学共通教育とは「専門分野の域を超えて、島根大学の学生に共通に求められる基礎的な力や幅広い知識を育成するための教育」であり、「基礎科目」と「教養育成科目」に大別されている。「基礎科目」とは「外国語」「健康スポーツ/文化・芸術」「情報科学」からなり、「教養育成科目」とは「入門科目」「発展科目」「社会人力養成科目」の 3 科目群からなる。その中の、入門科目・発展科目においては「それぞれ学問分野に応じて人文社会科学分野、自然科学分野、学際分野の区分を設け、学生の主体的・体系的な履修を促す」という構成がとられている。

とくに本学の教育改善に向けて注目されるのは、上記の全学共通教育に加えて展開されている「各種教育プログラム」である。「各種教育プログラム」とは「特別副専攻プログラム」「地域志向教育」「COC 人材育成コース」「補完教育」「初年次教育プログラム」「ピアサポートプログラム」「低学年次学生対象の体験学修」「キャリアデザインプログラム」「地方と東京圏の大学生対流促進事業」「大学院特別副専攻プログラム」などからなり、多彩に展開されている。

今回の視察では外国語教育の実践例を学ぶことに焦点の一つが当てられていたため、「各種教育プログラム」の中でも、「英語高度化プログラム」「中国語実用化プログラム」などを含む、「特別副専攻プログラム」について、実際の運用状況など、視察で得られた内容を適宜加えながら、詳細な説明がなされた。まず「特別副専攻プログラム」とは「特定のテーマについて、学部・研究科の枠を超えて授業科目を体系的に編成」し、「学生の多様な興味関心に即したプログラム」となっている。その中に、「英語高度化プログラム」「中国語実用化プログラム」などが位置づけられ、外国語教育の正規の授業と正課外の活動とを組み合わせることによって学修効果を導き出す取り組みなどがなされている。そのほかにも学生が主催するプログラムがあることや、それへの支援の仕組みについて紹介がなされた。

このような島根大学のプログラム化による教育の活性という取り組みは、本学の教育改善においても大いに参考となることを FD 参加者で共有した。また視察された際の写真の紹介などもあり、実際の運営についても理解を深めることとなった。

川越明日香先生（熊本大学大学教育統括管理運営機構）ご講演
「熊本大学における教養教育」の要約

熊本大学は、熊本市内に 3 つのキャンパスを有し、7 学部 9 研究科に加え 2 つの専攻科・別科で構成される、学生および教職員 1 万 2000 名程度を擁する中規模大学である。

教養教育については、各学部において、履修の方針及び要望が存在するが、一般的には、専門ではない科目を幅広く履修することが望ましいとされる傾向にある。しかし実際は、「楽単」科目や、学生たちの時間割の都合に左右され、大学が意図する履修状況にはなっていなかった。

川越先生が熊本大学にご着任になった 2017 年、教養教育の問題点の洗い出しを行い、その結果「教養教育の狙いが徹底できていない」「授業科目数が多い」「学部での履修指導がしにくい」「受講制限の科目が生じている」という 4 つの問題点が浮かび上がってきた。それらを解決するべく「科目パッケージ」の導入を行い、約 200 科目存在するリベラルアーツと現代教養科目から、約 100 科目を 10 個の主題に基づいたパッケージ（各パッケージ 10 科目程度）に分類した。狙いは「リベラルアーツを軸に一つのテーマを多角的に、そして深く学修することで、学問の扉を拓く」ことである。（本報告書の参考資料スライド 2~4）

本パッケージ科目においては、文系の学生は自然生命を主軸とした 4 つのパッケージから一つを選択し、理系の学生は人文社会学系を主軸とした 6 つのパッケージから一つ選択する。1 つのパッケージの履修者数は最大 180 名程度であり、それらの学生を、10 名（10 科目）の教員が担当して学修を導き、深めさせるイメージである。（スライド 5）

パッケージ内のルールとしては、各パッケージ内の 10 科目（10 単位）のうち、各ターム 1 単位以上、通年合計 6 単位以上履修し、特に第 1 タームにおいては必ず 2 科目を履修する。（第 1 タームに設置する科目は、パッケージの中心となる科目である。）また、科目の構成（主要分野・近接分野・関連分野）を学生に説明し、一つのテーマを様々な切り口から学際的に学ぶという狙いを意識させる。（スライド 6）

パッケージ科目の維持は、全教員が所属している部会に負っており、一つのパッケージを複数の部会※で支える形となっている。例えば、第 8 パッケージ「ことばを科学する」であれば、科学と技術部会、哲学部会、文学・言語学部会が科目を拠出する責任母体となり、パッケージの総単位数を常に 10 とできるようにする。

川越先生のご所属は「大学教育統括管理運営機構」（英語名は Headquarters for Admissions and Education）内の「教育プログラム管理室」であり、本機構は、教育の実働部隊というよりは、教養教育の管理運営をする部局である。そして、「教育プログラム管理室」の下に配置された「教養教育実施本部」の中に部会が存在する構成である。機構の専任は 5 名である。

パッケージ科目導入の成果としては、授業科目の体系化（深く学ぶ力の育成）、授業科目のスリム化（教育の質を保障しながら、担当比率の高い部会の負担軽減を図る目的で、20 単

位分を削減)、履修指導の効率化、教育内容の高度化（科目を、主要分野・近接分野・関連分野へ分類することによる担当教員への意識づけ)、受講機会の保証（すべての学生を第 2 希望までに配属でき、受講難民が解消）といったことが挙げられる。(スライド 7）課題としては、パッケージ内の単位数の見直し、教育内容の高度化、成績評価の厳格化、学修行動の調査が挙げられる。(スライド 8)

必修外国語科目については、既修言語の英語は 4 単位～6 単位（文系のみ 2 年次まで履修)、初修外国語は、理系学部においては 2019 年度から必修としないこととなった。外国語科目運営体制については、2020 年度に大学教育統括管理運営機構の付属センターとして多言語文化総合教育センターが設置され、教養教育における外国語科目の高度化と質保証、グローバル教育の充実と質向上における責任母体として機能していくことが期待されている。

※分野別部会 19 部会、科目別部会 9 部会（平成 29 年 4 月 1 日時点）(参照 URL: https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/torikumi/kyouyou/kyouyou_file/gainenzu-1.pdf）

質疑応答

Q. 「教育を語る文化の創造」がパッケージ科目でどのように出来ているのか？パッケージ内の科目間での意思疎通は行われているのか？
A. 基本的に、授業内容は今までの踏襲であるが、各パッケージのテーマやキーワードの要素を取り入れて頂けるよう担当教員に依頼している。また学生から、科目間の内容の重複や方向のバラつきについて意見が出るようになっており、教員はそういった学生の声を真摯に受け止めている。科目間で意思疎通ができるようになってきたパッケージもある。川越先生の前任校である長崎大学では、「モジュール」単位で、担当教員が半期ごとに振り返りをすることで、教員間で、学生の様子を多面的に把握することができていた。熊本大学でも、理想とするところはパッケージごとに教員が顔を合わせ、テーマや学生について議論できることである。

Q. 10 個のパッケージは、誰がどのように決めたのか？
A. 川越先生がご着任後、すぐにパッケージを作る WG を作った。理学部と文学部をベースに教養教育を支えていくという執行部の狙いがあったため、それらの学部から 2 名ずつと、機構から 2 名の計 6 名で WG を構成した。文理でパッケージ数が違うのは、理系の学生が多いためである。

Q. 学生から、途中でパッケージの変更希望はないのか？
A. 稀にあるが、パッケージをまたいで履修することや、パッケージの変更は許可していない。ただ、必修ではないので、パッケージ科目（約 100 科目）を履修しなくても、他のパッケージ外科目（約 100 科目）で必要単位数をとれば卒業はできる。ただ、今のところ、パッケージ科目を取りこぼした学生は存在しない。

Q. 専門の先生方から、履修したパッケージによって学修成果の落差があるという意見はないか？
A. 異なるパッケージでも、似たような科目が存在するように構成している。（たとえば第 1 パッケージ「環境を考える」と第 2 パッケージ「命を見つめる」では、似た科目が存在する。）今のところ、履修するパッケージによって差が出ることはなさそうである。

Q. パッケージ内の科目を「主要科目」「近接科目」「関連科目」に位置付ける構成が、他大学における通常のパッケージ科目から一歩進んでいる印象を受ける。このパッケージ化にあたり、教員をどのように説得したのか。理解を得られたポイントを教えてほしい。
A. これに関しては苦労をしたところである。機構から色々と提案をするのではなく、機構の WG の中に、主軸となる各部局の教員に入って頂き、その先生方から話を進めてもらう形をとったのが良かったと思われる。また、部局長と副部局長（教務担当の副学部長）に向けて、一学部ずつ説明に赴いたが、その際、各学部の要望も細かく聞き、それらを取り入れながらカリキュラム設計を行った。さらに、200 科目から 100 科目をパッケージ科目としてピックアップした際は、対象科目の教員を対象とした FD を 3 回開き、意見交換等を丁寧に行った。

Q. 熊本大学の当初の問題として「教養教育の狙いが徹底できていない」というものがあったが、現在は徹底できて来たか？
A. 学生は専門への所属意識が強く、教養教育科目に関しては手を抜く傾向にある。教員も、教養教育に関しては「手伝ってあげている」という意識を持っている場合も多い。そのため、学生に対しては、124 単位のうち、すべて専門科目で卒業できるわけではないことを伝え、教員に向けては、「リベラルアーツを軸に深い学びを保障する熊本大学の教養教育（教養教育の根幹を問う／学問を追及する力の育成／伝統的な総合大学の強みを生かす）」という柱を打ち出した。

Q. 富山大学の教養教育院では、今後、基礎ゼミ等の初年度教育を導入することも検討しているが、熊本大学は基礎セミナーやベーシック科目を廃止※しているのが興味深い。
A. 川越先生ご本人としては、初年次教育に力を入れることが大切だと思っているが、ご着任前にこれらの科目は廃止されてしまっていた。現在は、単位外の総合教養講座として、そ

ういった科目が開講している。（図書館活用法、大学における薬物乱用、喫煙及び飲酒の問題、など。）

※ 廃止されたベーシック科目の内容は、以下の通りである。
① 熊大 A to Z （熊本大学の概要、科目概要）
② 図書館活用法
③ 環境報告書を読んで行動する技術
④ 生活のまわりのリスク
⑤ 大学における薬物乱用および飲酒の問題
⑥ レポート作成の基本（2 回）
⑦ 一年次生のためのキャリアガイダンス
基礎セミナー（90 分×8 回）は、1 クラス 20 名までとし、全学部の教員が一定数ずつ担当した。テーマは各教員の自由であった。
　熊本大学における基礎セミナーとベーシック科目については以下の二つの資料に詳しい。
【1】本間里見「コミュニケーション能力を高める『基礎セミナー』」熊本大学大学教育機能開発総合研究センター，大学教育年報，第 15 号（2012 年 3 月），p.37-42.
【2】ベーシック分科会「初年次教育科目『ベーシック』の開発と導入」同，p.50-58.

Q. 英語科目構成の背景や目標設定を教えてほしい。また、教科書や成績の統一、習熟度別教育は行われているのか？
A. 英語の科目構成については着任時期からこうなっていた。シラバスの統一は行っていくべきだと考えるが、現状はそれぞれの担当教員に任せられている。成績評価は、部会で分布を見ながら振り返りを行い、次学期に向けての調整を行う機会を設けてもらっている。（外国語部会はその機会を定期的に持っている。）習熟度別教育については行っていない。

Q. 専門外の科目を履修する利点と、専門に進む前の道しるべとなる、専門に近い科目を履修する利点もある。専門に近い科目を履修したいという希望の学生はいないのか？
A. パッケージ 10 単位中の 6 単位をとれば良いため、パッケージ外の科目も履修することが可能である。

Q. クォーター制の功罪について教えてほしい。
A. 熊本大学はクォーター制であるが、実際は一つの科目が真ん中で切れている形となっている。学習内容が浅くなる、試験関連の負担が大きい等のデメリットと、科目が取りやすくなった、8 回でコンパクトにまとめられて良いというメリットがある。ただ、海外留学する学生数が増えていないので、実際メリットはあまりないように思う。執行部からは、教育効果が見えなければ、セメスター制に戻すという意見もある。提携校もある話なので、慎重な

議論が必要である。

Q. 学生に「考えさせる力」をつけさせる具体的な工夫はあるか？
A. パッケージ科目の導入によって、一つのテーマを様々な切り口から学ぶことができるようになったが、アウトカムとして、そのパッケージを学んで何ができるようになったか、そして、それを誰が評価するのかなどについては、まだ議論が進んでいない。今後の課題である。

Q. 熊本大学の多言語文化総合センターは、どういう問題をうけて、こういった組織ができたのか。
A. 多言語文化総合センターは、部会で構成されていた教養教育実施本部と、附属グローバル教育カレッジを併合して誕生した。すべて併任教員となり、バーチャルな組織である。関係する教員は、今までは語学科目だけを担当していたが、このセンターに所属となることで、本学のグローバル教育も推し進めるという視点も持ってもらえればと考えている。また、これまで語学科目を担当してこられた先生方には、語学科目だけでなく、パッケージ科目にも参画して頂きたいと計画もあり、そのためにこういった組織化が必要であった。

参考資料

他大学の教養教育の現状に学ぶ

実施計画

１．開催趣旨

本会は，教養教育の改善に向けた他大学の優れた取組みについて，熊本大学より川越　明日香　氏（教育統括管理運営機構　准教授）をパネリストとしてお招きし，熊本大学における事例について御紹介いただくとともに，令和２年２月に実施した山口大学・島根大学での視察内容を教養教育院教員から報告し，情報共有を図ることを目的とする。

また本件は，教養教育院が行うFDとする。

２．開催日時

令和２年９月１日（火）13：30 ～15：30（予定）

３．開催会場

Web会議システム「Zoom」ミーティングによる参加

４．対　　象

本学教職員

５．次　　第

①　開会・オリエンテーション　【13:30 ～ 13:40】

・開会挨拶：鳥海　教養教育院副院長

・開催趣旨・日程説明：彦坂　教養教育院教育改善検討WG座長

②　他大学の事例紹介と討論　【13:40 ～ 15:20】

（パネリスト：　川越　明日香　氏（熊本大准教授），教養教育院教員）

・全学共通教育の概念と実施内容

・共通教育の実施・管理体制

・外国語教育

・その他

③ 閉会挨拶　【15:20 ～ 15:30】

・武山　教養教育院長

参考資料

教養教育院FD2020
「他大学の教養教育の現状に学ぶ」参加状況

所属部局等	参加人数
教養教育院（理事含む）	20
人間発達科学部	3
経済学部	5
工学部	1
都市デザイン学部	2
芸術文化学部	1
大学院教職実践開発研究科	2
研究推進機構	2
地域連携推進機構	1
国際機構	3
総合情報基盤センター	2
環境安全推進センター	1
合計	43

参考資料

富山大学教養教育院FD

熊本大学
Kumamoto University

熊本大学における教養教育

熊本大学　川越明日香

2020年9月1日（火）

教養教育の問題点と改革の目的

熊本大学
Kumamoto University

熊本大学における教養教育の問題点

○教養教育のねらいが徹底できていない
－科目の散在によって、学生は教養教育で何を学んだかが分からない。

○授業科目数が多い
－年間1059科目（リベラルアーツ科目・現代教養科目は、201科目）。

○学部での履修指導がしにくい
－ DP、CPを意識し、学士課程教育全体を見据えた教養教育の履修指導ができていないのではないか。

○受講制限の科目が生じている
－受講希望者が集中することによって受講制限が生じた科目は、57科目（2017年度前期・第1ターム）。

教育の質保証に向けた教養教育改革の目的

○授業科目の体系化
○授業科目のスリム化
○履修指導の効率化
○教育内容の高度化
○受講機会の保証

2018年度から1年次生を対象とした
「**科目パッケージ制**」の導入

©Asuka KAWAGOE

熊本大学における教育体系

熊本大学
Kumamoto University

- 大学教育
  - 教養教育
    - リベラルアーツ科目
    - 現代教養科目
    - Multidisciplinary Studies
    - 基礎科目
      - 外国語科目
      - 情報科目
      - 肥後熊本学
      - 理系基礎科目
      - 体育・スポーツ科学科目
    - キャリア教育
    - 開放科目
  - 専門教育
    - 専門基礎科目
    - 専門科目

約200の授業テーマを
パッケージ科目（約100科目）
と
パッケージ外科目（約100科目）
に分類

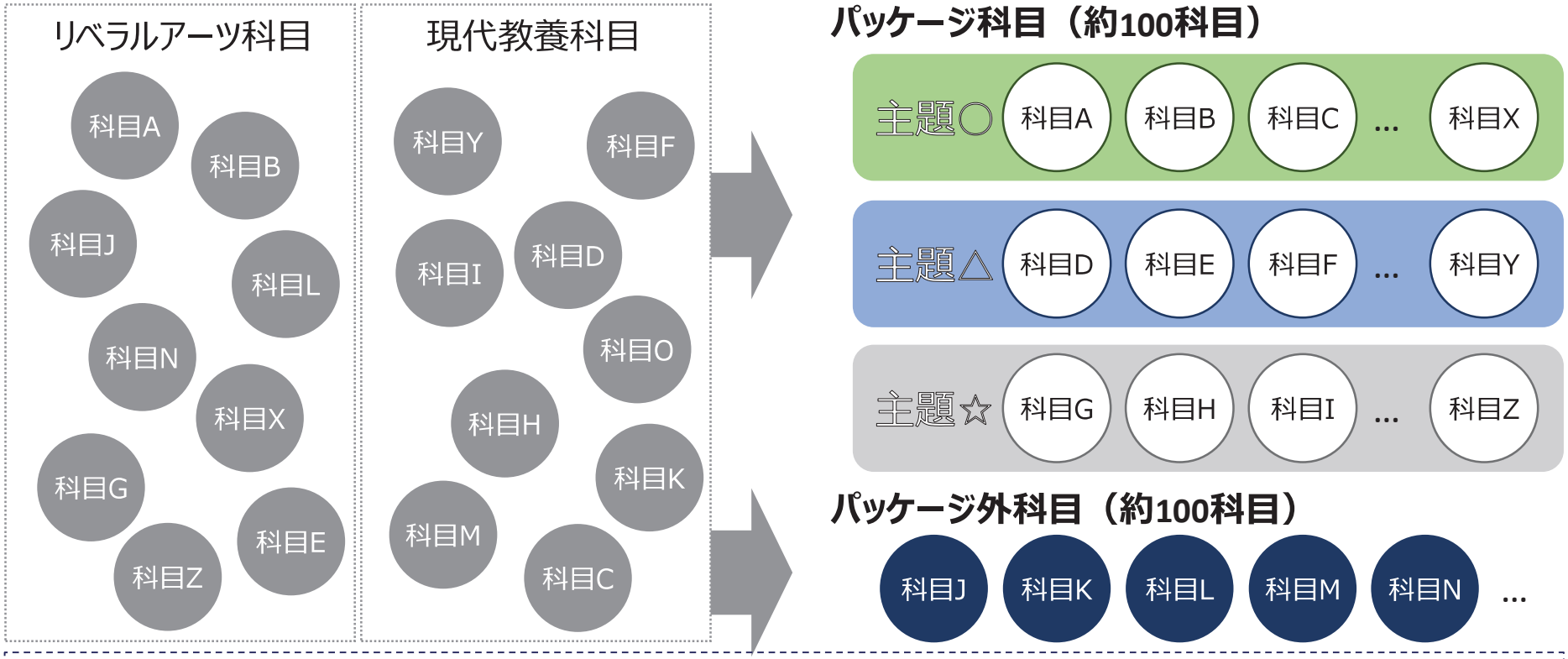
©Asuka KAWAGOE

パッケージ制のねらい

熊本大学 Kumamoto University

リベラルアーツ科目[*1]と現代教養科目[*2]のうち、共有する主題ごとにパッケージ化された科目群の総称。

【ねらい】 リベラルアーツを軸に一つのテーマを多角的に、そして深く学修することで、学問の扉を拓く



*1 リベラルアーツ科目は、学問を体験する科目として、各学問分野の物の見方、考え方を学び、それらを用いて主体的に考える力を養うことを目的としています。
*2 現代教養科目は、学問を知り、関心を広める科目として、学問的課題や現代社会の諸課題を把握し、学問分野におけるそれらの課題へのアプローチとその成果についての知識を身に付けることを目的としています。

（2020年度 教養教育の案内より）

©Asuka KAWAGOE

パッケージテーマの選択

熊本大学
Kumamoto University

１パッケージあたりのクラスサイズ　最大180名

第１～第４パッケージ

- **第1パッケージ** 環境を考える
- **第3パッケージ** 自然に触れる
- **第2パッケージ** 命を見つめる
- **第4パッケージ** 安全・安心に暮らす

第５～第１０パッケージ

- **第5パッケージ** 人間を探究する
- **第7パッケージ** 歴史を探究する
- **第9パッケージ** 世界を探究する
- **第6パッケージ** こころを科学する
- **第8パッケージ** ことばを科学する
- **第10パッケージ** 社会を科学する

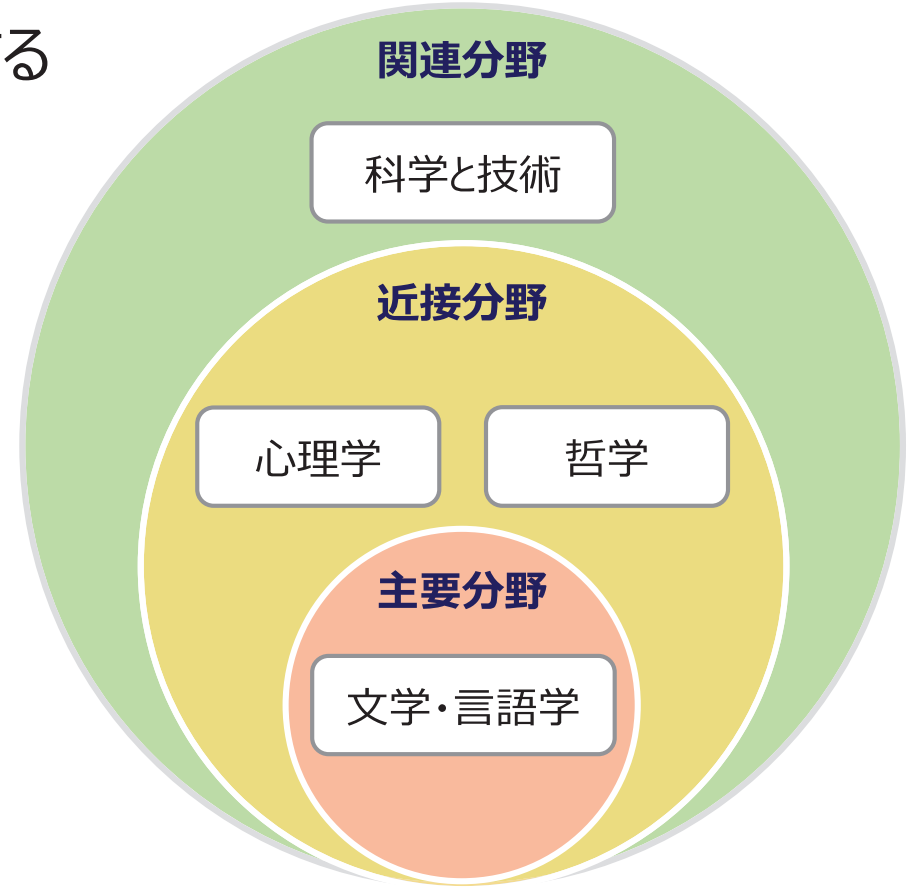
文学部、教育学部、法学部の学生は第１～４パッケージの中から１つのパッケージを選択する

理学部、医学部、薬学部、工学部の学生は、第５～１０パッケージの中から１つのパッケージを選択する

©Asuka KAWAGOE

科目の構成

≪パッケージ８≫
ことばを科学する



初回のパッケージ科目では、「科目一覧」と「科目の構成」を配付。
一つのテーマを様々な切り口から学際的に学ぶというねらいを意識させた。

©Asuka KAWAGOE

成果

○授業科目の体系化

– 複数の科目をテーマで体系的につなぎ、深く学ぶ力の育成
（約100科目を10テーマに分類）

○授業科目のスリム化

– 各部会の登録者数と開講科目数の比率に基づき、担当比率の高い部会の開講数20単位を削減

○履修指導の効率化

– 学部・学科の履修方針および要望に沿った構成

○教育内容の高度化

– テーマ内の科目を「主要分野」、「近接分野」、「関連分野」に分けて配置

○受講機会の保証

– テーマによってばらつきはあるものの、多くの学生が第2希望までに配属
– 学修コミュニティの形成

©Asuka KAWAGOE

課題

○単位数の見直し

– パッケージ科目で修得すべき単位数の見直し

○教育内容の高度化

– リベラルアーツ科目の実質化に向けた文学部・理学部を中心とした議論
– 主題内のパッケージ科目における教員間の連携（教育を語る文化の創造）
– アクティブラーニング型授業の拡大

○成績評価の厳格化

– パッケージ内・パッケージ間の成績の差
– 厳格な成績評価のあり方を今後も検討

○学生の学修行動の調査

– 学修意欲の維持・向上
– 学生による授業改善のためのアンケートや意見箱に寄せられる意見の分析
– 学修成果との相関

©Asuka KAWAGOE

富山大学 教養教育院 ＦＤ活動報告
令和２年度第２回ＦＤ研修会

発行年月	2021年4月
作成	教養教育院 教育改善検討ワーキンググループ
ワーキンググループ構成員	彦坂 泰正
	上田 理恵子
	杉森 保
	谷口 美樹
	山岸 倫子
表紙デザイン	武山 良三